

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600014		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム にこにこ館		
所在地	十和田市相坂字高清水1269		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでは施設での生活を入居者様に楽しんでいただけるよう、外出や季節を感じる行事を企画・実施していましたが、現在はコロナウイルス感染症のため、外出が困難であり、施設内での生活をいかに楽しく過ごしていただくことができるかを考え、感染症対策を取りながら館内でのレクリエーションを開催し、楽しんでいただけるようにしています。
ご家族様との対面での面会が制限されているため、ZOOM面会と窓越しでの面会を実施・継続し、入居者様の様子をご家族様へお伝えできるように努めております。
入居者様には可能な限り長い間、口からの食物摂取をしていただけるよう、食事形態や提供方法の工夫を行い、援助しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和4年12月15日		

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設独自の理念を掲げ、毎朝の申し送り時にスタッフ全員で唱和し、意識付けをした上でケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「にこにこツアー」という行事を企画し、スタッフ1名と入居者様1名で外出する機会を設けたり、地域の方を交えての行事を開催する等、意欲的に交流を図っているが、現在はコロナのため、外出行事は行えなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して勉強会を開催したり、行事を企画することで地域の方々と触れ合い、理解していただく努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、2ヶ月に1回の会議を開催していたが、今年度はコロナ感染症のため、書面での対応を行っている。その際、様々な資料やアンケートを送付し、返送していただいたご意見を基に、サービス内容へ反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき、日々の取り組みについて報告している。また、情報交換や情報共有をさせていただき、連携を取っている。(現在は書面での対応としている。)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が書面や勉強会等で身体拘束についての内容を理解し、知識を深めた上でケアを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員でマニュアルを読み、理解を深めた上でケアを行うようにしている。また、施設内外での研修や勉強会へ参加し、学ぶ機会を得ている。身体拘束や言葉の暴力に十分に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加し、参加した職員が情報を部署内の会議等で伝達する機会を設け、職員間で共有・理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族様に書面及び口頭で十分に説明を行い、納得していただいた上でご契約いただいている。不明な点や疑問点があった際には、納得していただくまでご説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様への満足度アンケート等で、ご意見・ご要望を挙げていただいている。また、日頃の会話等で入居者様に対してのご要望を聞き、ケアへ反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議や緊急会議を開催し、職員の意見を聞く時間や個人的に面談を行う機会を設け、仕事の意欲やモチベーションへ反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や勤務状況を把握している。また、個々の目標を設定していただき、日々の業務の中でやりがいや向上心を持てるようにしている。また、面談や日々の様子を把握して昇給や昇格を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に施設内外の研修への参加を勧め、参加の機会を確保しながら、スキルアップに努めている。また、研修資料を職員全員が閲覧する体制を設け、情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部門会議が定期的に行われ、ネットワーク作りができています。系列のグループホームと業務内容や情報交換を行い、関係性の構築ができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時のアセスメントを通して、入居者様の把握に努めている。また、日々のコミュニケーションの中でご本人様の思いに耳を傾けながら、ご本人様との信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結時に不安や要望を聞き、ご家族様の思いを尊重するように努める。また、面会や連絡時にはご家族様とのコミュニケーションを積極的に図り、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、入居者様とご家族様の要望を確認し、担当ケアマネジャーと調整を行っている。また、関係機関や他のサービス利用時の対応にも務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の経歴や現在までの生活歴を理解するように努め、軽作業等を通して身近な存在とさせていただけるよう、環境配慮に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報交換を行い、ご家族様の思いを理解・反映できるように努めている。また、入居者様を共に支えていく関係性を保持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とご本人様との交流を通じ、入居者様の馴染みの人や場所を知ることに取り組んでいる。感染症流行時以外は馴染みの美容院や店への外出、頼りにしている方との電話や面会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者様同士の関係を把握し、トラブルになり得る時は職員が間に入り、影響がないように努めている。また、一人ひとりが孤立しないよう、コミュニケーションの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの提供が終了してからも様子を確認し、必要時には今後について相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し、職員間で共有している。また、入居者様の思いに寄り添いながら支援するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・ご家族様から情報収集し、アセスメントを行い、これまでの生活歴について把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの1日の生活リズムを把握し、職員間で共有している。生活の中でできる事を観察し、その能力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様により良い生活をしていただくために、入居者様・ご家族様と話し合いをし、介護計画を作成している。3ヶ月毎に評価し、変化があった際には再アセスメントするようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特記事項を個々のケースへ記載し、残している。変化への対応については全職員で検討・共有し、ケアを統一して行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係機関と連携し、必要な支援に対応するべく、柔軟な対応・サービスの提供ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校との交流を通して、地域の方々とのつながりを持つようにしている。また、隣接する介護老人保健施設やケアマネジャー等との関わりを持ち、安心・安全な暮らしをサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人様・ご家族様が希望される場合には、希望の病院へ受診できるようにサポートしている。かかりつけ医がない場合でも、何かあった際にはしっかりと連携病院にて診ていただけるようにサポートしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度の訪問看護師来館時や状態変化があった際は、相談を行っている。それ以外でも気になる事がある場合には、訪問看護師や病院、隣接する介護老人保健施設の看護師へ連絡し、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状態の申し送りや退院時の状態について、しっかりと把握できるようにサマリーを作成し、情報共有に努めている。また、病院へこまめに連絡を行い、状態の把握ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期ケアについて説明を行っている。状態変化の際にはご家族様にも病院受診へ同行していただき、医師の説明を聞いていただくようにしている。また、看取りについての勉強会や対応の仕方について、スタッフ間で共有するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接施設にて開催される勉強会へ参加し、知識を深めている。ロールプレイを行い、実際に想定した訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いのもと、毎年避難訓練を行っている。また、隣接の介護老人保健施設との合同避難訓練を実施し、連携の仕方を確認して協力体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声かけについて職員間で都度見直しを行い、個々を尊重した声かけ・援助を行っている。また、個人情報の取り扱いにも十分に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを尊重し、自己決定できる場を設けられるように支援している。また、入居者様の希望に沿えるよう、日々努めてケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや思いに合わせた支援ができるよう、アセスメントを行っている。職員目線でのケアにならないよう、職員間で声をかけ合うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望する衣類を一緒に選び、好きな衣類を着用していただいたり、整髪等の身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態や体調を考慮し、食べやすいように器や盛り付け、食事形態を工夫しながら提供している。また、食事の盛り付け作業や下膳等、無理のない範囲で一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する介護老人保健施設の管理栄養士へ相談し、献立を作成している。水分摂取の困難な方や摂取できない食品がある方についても相談し、個々の摂取状況に応じた提供を行い、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行うように支援している。ケアが不十分な方は付き添い・援助を行い、口腔内の異常等の有無を観察している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様それぞれの排泄リズムを把握し、トイレ誘導や排泄の声かけを行っている。可能な限りトイレでの排泄ができるように支援し、オムツに頼らないケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方の日々の生活リズムや便秘となり得る背景についてアセスメントし、可能な限り薬に頼らずに排便を促すことができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様の気分やペースに合わせて入浴ができるように努めている。拒否の際は無理せず、曜日の変更や時間を置く等、工夫をしている。入浴時の関わりを大切に、入居者様の思いを引き出す場としている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを把握し、体調や状況に応じて柔軟な対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬変更時は、副作用の確認・服薬により起こり得る症状や状態変化について、職員間で共有するように努めている。服薬援助時には飲み込み確認を行い、確実に服薬できているかを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や状態に合わせて、作品作りやレクリエーションへの参加を援助している。達成感を味わっていただき、気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行により、現在は外出することが困難であるが、季節の移り変わりや時事ニュースから楽しい出来事を探し、お伝えしている。(これまでは、月に一度の外出行事を企画し、可能な限り実施していた。)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様からの要望を伺い、必要時にはご家族様と相談し、入居者様管理とする旨の了承をいただいた上で金銭管理の支援をしている。外出時には職員見守りのもと、支払いを経験していただく等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話があった際、会話の希望時にはご本人様へ取り次ぎ、コミュニケーションを取る時間を設けている。定期的に送付している「にこにこ通信」等のお便りにて、日々の様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓があり、自然光が入って明るい。居室やホールには季節の壁画を貼り、季節を感じていただけるようにしている。温度計にて室温や湿度の管理を行い、快適に過ごしていただけるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテレビを見たり、他者とレクリエーションを行いながら、関わりが持てるようにしている。気の乗らない時等には無理強いないで居室で過ごす等、ご本人様のペースに合わせた生活をしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様の写真やご本人様の使い慣れた物品を準備していただき、入居者様の過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室・浴室等がわかりやすいよう、床や壁面へ表示を行い、場所に認識がしやすいように工夫をしている。		